

b)その他の洞窟等

事業実施区域及びその周辺で当初確認されていた洞窟は、A～D洞窟の4洞窟であった。

平成14年度、平成15年度に行った洞窟探査調査でA～D洞窟以外に13の洞窟等が確認された。その位置及び調査結果は表-6.12.1.1(71)、図-6.12.1.1(65)に示すとおりである。

このうち、③洞窟では126個体の小型コウモリ類の利用が確認されたことから、E洞窟と位置づけ、調査を継続した。また、⑤洞窟は、当初から調査を行っているB洞窟の別の洞口であった。よって、A～E洞窟以外に11か所の洞窟等を確認している。A～E洞窟以外に確認された11か所の洞窟等については、平成17年5月、6月に小型コウモリ類の利用について追加調査を行い、新石垣空港整備事業に係る小型コウモリ類検討委員会を開催し、これらの洞窟等の保全等について検討を行った。

その検討の結果及び講じる措置は、以下のとおりである。

調査結果より小型コウモリ類の確認個体数は表-6.12.1.1(72)、洞窟の状況、利用状況及び事業との関係は表-6.12.1.1(73)に示すとおりである。

事業実施区域内の4洞窟では、②洞窟が平成14年度にヤエヤマコキクガシラコウモリが1個体確認されたが、平成17年5月、6月の調査では確認されなかった。④洞窟は小型コウモリ類の利用の痕跡が確認されなかった。また、両洞窟とも豊水時には水没することから、小型コウモリ類の継続的な利用は困難であると考えられる。⑦、⑧洞窟は、奥行き2～4m程度と極めて規模の小さな人工洞であり、利用の痕跡も確認されなかった。

事業実施区域外の7洞窟では、⑨、⑫洞窟で小型コウモリ類の確認、もくしくは糞の確認がされたが、少数であった。⑬洞窟は、平成15年度の調査で糞が確認されたが、平成17年5月、6月の調査では利用の痕跡は確認されなかった。これらの3洞窟は、集団で継続的に利用する洞窟ではないと考えられる。残りの①、⑥、⑩、⑪洞窟については小型コウモリ類の利用の痕跡が確認されなかった。

以上のことから、平成14年度、平成15年度、平成17年度5月、平成17年6月調査結果より、11洞窟については、小型コウモリ類の確認状況等から、事業実施区域及びその周辺に生息する小型コウモリ類が集団で継続的に利用する洞窟ではないと考えられる。

A～E洞窟以外に確認された11か所の洞窟等については、小型コウモリ類が集団で継続的に利用する洞窟ではないと考えられるが、小型コウモリ類が確認された洞窟や糞の堆積のみられた洞窟(⑨、⑫、⑬洞窟)の保全については、専門家から、現状のまま維持することが望ましいとの助言を得ており、事業実施区域外で事業により改変されることはないことから特段の措置は行わない。

事業実施区域内の②、④洞窟の空間は残存し、引き続き水みちとなるようボックスカルバートで飛行場の外側に導水する計画であるが、ボックスカルバートについては小型コウモリ類が洞窟への新たな出入り口として利用できるよう配慮する。